

随想

世代のこと

自立できる熟年層の存在が、若年層を支える基礎になる

（株）PQC研究所 加藤 宏光

一か月近く前の記事であるが、日経新聞のコラム春秋に《若くしてなった嘉納治五郎のこと》が取り上げられていた。大意を紹介する。

一三五年前の明治十五年以後に柔道の父と呼ばれる嘉納治五郎は東京・下谷の永昌寺に講道館を開いた。当時彼は二二歳前で前年に東大を卒業したばかり。この数年後に学習院の教頭に就いている。今では考えられない若さでの登用は、文明開化という時代の要望に応えられる人材が少なかったからだろう。それはまた、嘉納が将来を嘱望されていたことの表れでもあったはずだ。そんな青年が仮の道場で近代社会にふさわしい格闘技を育もうとした。彼が並外

れた情熱の持ち主であり、いまでいうベンチャースピリッツに通じる。実際起業家に例えれば、大きな成功をおさめたといえよう。二二五年後に世界の柔道になつていたのである。彼を模して富田常男が書いた《姿三四郎》で表現されているように、嘉納の成功の陰に旧来武道家を蹴散らした側面があったであろう。これもベンチャーらしい（日経新聞、六月五日朝刊コラム春秋から）。

この記事を読んで、内容には然りと思うものの、二二歳で学習院教頭云々には多少違和感をもった。そもそもわが国では元服時点で社会が大人として認められる風習があった。元服後は二二、二三歳であっても大人としての心構えを要した。このような歴

史を勘案すれば、二二歳で東大を卒業したばかりの嘉納が学習院の教頭に就いたこと自体は《彼が抜きんで優秀であったことは当然であるが》特段時代を反映したといえない。

優秀な若者を見渡せば、現代でも数多い。ざっと上げてみれば、つい先日、高校時代通算で一〇七号のホームランを打ち歴代最高タイ記録を打ち立てた、清宮幸太郎（一七歳。怪物と呼ばれるが一〇七号がタイ記録であるということは先人での記録保持者がいる、ということはおききたい。ちなみにタイ記録保持者は現在JR西日本西条駅勤務の山本大貴氏）、史上最年少でプロ将棋家となり、去る七月二日に初めて公式戦で敗

退するまで、二九連勝を重ねた藤井聡太（一五歳。昨年十二月二十四日に加藤一二三九段に勝利してプロデビューを果たしたが、この一戦で敗北した加藤一二三九段も一九五四年に一四歳でプロ入りした天才である）、一〇〇年に一人の天才と呼ばれる中学生卓球選手、張本智和（一四歳。二〇一三年に中国国籍から帰化。昨年ジュニア大会で優勝。ポイント獲得時のチョーレイという叫び声で知られる。現在世界一八位）、リオオリンピックでは表彰台を逃したが、二〇二〇年の東京五輪では金メダルが期待される水泳の池江璃花子（一七歳。自宅のふろ場で水中出産という変わったエピソードを持つ。生後二か月か

韓 国七・五%、シンガポール七%、北 欧四・五%、英 国四%、い ず れ も 略 々 数 値）。この傾向は、年金支給開始年齢の引き上げに「不安感を感じ始めたこともあり、現役時代の経歴、経験を生かして新しく起業する傾向が強まっている。

ら超早期教育を受ける。二〇一四年日本水泳選手権大会で中学生として五〇歳、一〇〇歳自由形、五〇歳バタフライの全種目で決勝進出（他の決勝進出選手はすべて大学生以上）などがある。

こうした優秀な若者が近年に多いような気がするが、先の加藤一二三九段の例のように、一九五四年（今から六三年も前）現在の藤井聡太棋士に並ぶ優秀な偉人がいることを考えても、どの時代にも優秀な人材は、ほぼ均しく現れている。

その才能をどう生かすかが重要で、多くは両親が同じ道を歩んだ先人であり、早くから専門の教育を施していることが共通する（そうしてみると現在の二世三世政治家はある意味必然なのか?!と愕然とするが…）

《優秀な若者がいる》という反面には《ひどい人格の若者も同様にいる》ということである。正確な個々のニュースは明確ではないが、中学生や高校生の殺人に及ぶ事件は枚挙にいとまが

ない。

二〇一四年七月二十六日に佐世保で発生した女子高校生（一年）、同学年友人殺人解体事件（医学書を読み、小学生時代にネコを解剖するなどしていた。中学生時代から殺人願望あり。父親は早稲田大卒の弁護士・自殺、母親は東大卒で長崎県スケート連盟会長・病死）。

台東区上野桜木で女子高校生殺害事件（二〇一七年五月四日に同級生の高校三年生男子・一七歳が佐藤麻衣さんを殺害後放火）。

川崎中学生殺人事件（平成二十七年二月に発生した中学一年生の上村遼太さんが川崎市多摩川河川敷で殺されているのが発見された事件。リーダー格の一八歳の少年および一七歳の少年を逮捕。三人は地元の顔見知りであったが、被害者は継続的ないじめにあつていた模様）。

こうした悲惨な事件が紙面やニュースで報道されると『近頃の若者世代は…』という愚痴ともとれることが云々される。し

かし、インターネットで検索してみると、若年層によるいじめに端を発する殺人事件は昭和の初めから各年代に散らばっている（一九三一年一月十三日高等小学校二年生―一三―一四歳―がいじめ復讐殺人、一九三三年小学一年生―八歳―がからかわれてナイフで殺人未遂、一九五〇年一七歳が主人一家皆殺しを凶り二人刺殺等々）。

時代が移っても、その時代で優秀な人々やとんでもなく劣悪な事件を起こすヒトがいれば均等に出ているものである。こうした若年層が一〇年二〇年と年を重ねて社会を構成している。

嘉納治五郎についてのコラムと同日の日経新聞九面に《挑むシニア起業家六三万人》という記事がある。それによれば、日本のシニア世代（五五～六四才）の起業家率は四%で過去一〇年の伸び率（七〇%の伸び率のこと）は先進諸国の平均を上回るのだそうである（もつとも、シニア世代の各国起業家率を並べると、米 国一〇%、中 国八%、

わが業界では年配の方々が現役でバリバリ活躍しておられる。社会保障に頼ることなく人生を謳歌できる熟年層が厚くなるのが、若年層を支える基礎になるであろうことを、シニア世代の一人として願うものである。

わが業界では年配の方々が現役でバリバリ活躍しておられる。社会保障に頼ることなく人生を謳歌できる熟年層が厚くなるのが、若年層を支える基礎になるであろうことを、シニア世代の一人として願うものである。